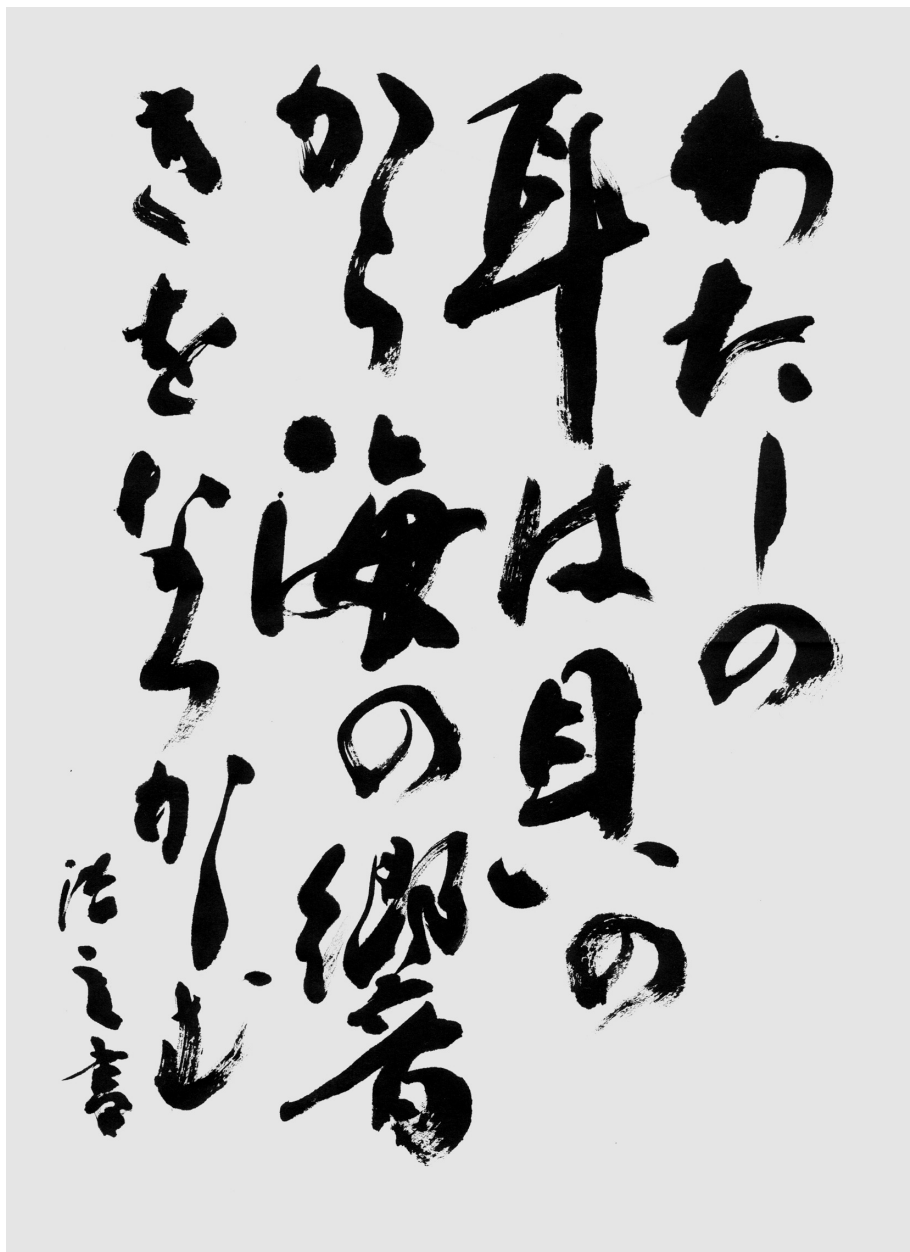


高・大・一般 漢字仮名交じり書

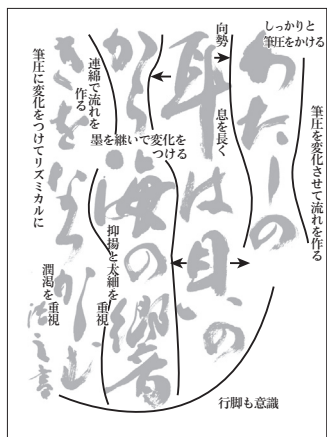
青山 浩之



※提出作品は、半紙を縦に使用。

〈釈文〉わたしの耳は貝のから 海の響きをなつかしむ
 〈出典〉ジャン・コクトー「耳」堀口大学訳

争坐位文稿・祭姪文稿より



〈解説〉

この短詩「耳」の作者は、フランスの芸術家ジャン・コクトーです。それを堀口大学が訳して、訳詩集『月下の一群』に収めて日本に広めました。ジャン・コクトーは、詩人、小説家、劇作家、映画監督として活躍し、ピカソやモディリアーニ、藤田嗣治など、20世紀初頭のパリに集まった外国人画家たちをはじめ、モンパルナスの画家たちとも交流しました。「耳」は、彼の詩的かつ象徴的な作品の一つといわれています。視覚と聴覚の関係を探求し、人間の内面的な世界との結びつきが強調されています。音のリズムや響きを通じて、読者に深い感動を与えるこの詩を、同じく内面を書き表出し、線質や造形で魅了する顔真卿の書をもとに表現してみましよう。

〈今月のポイント〉

顔真卿の「争坐位文稿」や「祭姪文稿」の書風を漢字仮名交じりの書に生かし、音や言葉の美しさを、「ゆったりとした運筆」と「抑揚のある線」で印象深く表現する方法を学ぶ。詩情を捉えて表現するために、文字に大小の変化をつける。ゆったりと筆を動かして穂を開閉させ、息の長い線や向勢の構えでダイナミックな作品づくりを目指す。

〈学習上の留意点〉

「わたしの」
 「わ」の「一筆目から筆圧をかけ、「たしの」は筆圧を変化させて穂が開閉するように運筆する。線に太細をつけ、流れを作る。
 「耳は貝の」
 漢字は大きく、息の長い運筆で大胆に書き、字形を向勢にとって懐を広く見せる。
 「から海の響」
 「から」を連続させて流れを出し、「海」で墨を継いで流れに変化をつける。「の」「響」は抑揚と太細をつけてクライマックスを演出する。
 「きをなつかしむ」
 筆圧に変化をつけながらリズムミカルに運筆し、潤海をつけて言葉の余韻を味わうようにまとめる。

高・大・一般 (毛筆・硬筆)

— 年賀状を書く —

十二月になり、日に日に慌ただしくなる中でも、年賀状は必ず書く方も多いのではないのでしょうか。

近ごろでは年頭の挨拶が手軽にできるメールやSNSの普及だったり、ハガキ代の値上りによる「年賀状じまい」といった言葉も聞きますが、年に一度の新年のご挨拶として年賀状は続けていきたい風習です。

〔年賀状の書式と留意点〕

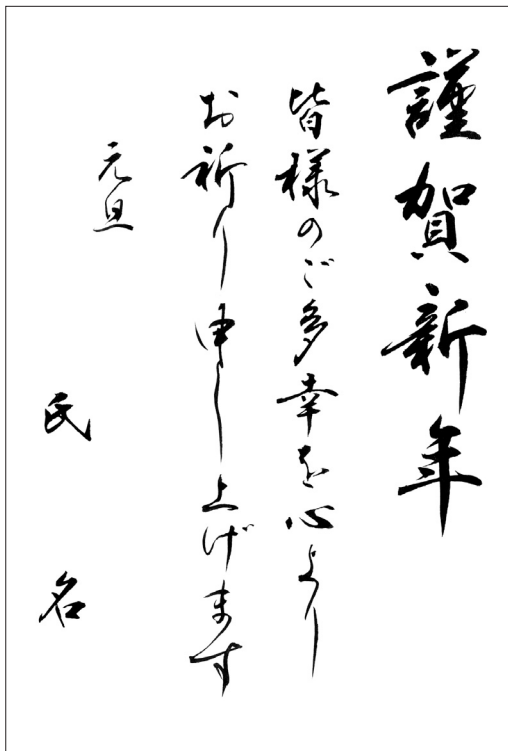
- ・年賀状は、賀詞、添え書き、日付(住所氏名)で構成するのが一般的です。毛筆の年賀状では、和語での賀詞と日付のみ、正月の俳句を書くといったものもあるようです。
- ・「迎春」や「賀正」といった二字の賀詞のほか「謹賀新年」など四字の賀詞は、相手に敬意を表す語句(謹)が含まれています。目上の方には四字の賀詞や和語での賀詞を使用するとよいでしょう。
- ・松の内(一月七日)までに届くよう、出す時期に留意しましょう。

今回は課題(A)、(B)に加えて、自由な創作で書く課題(C)を設けます。(C)は年賀にふさわしい文面として、「用紙は課題(A)(B)と共通。縦横の向きや筆記具は自由。デザイン文字ではなく、古典や書写の字形に則った書風」で書いてください。

西城 研

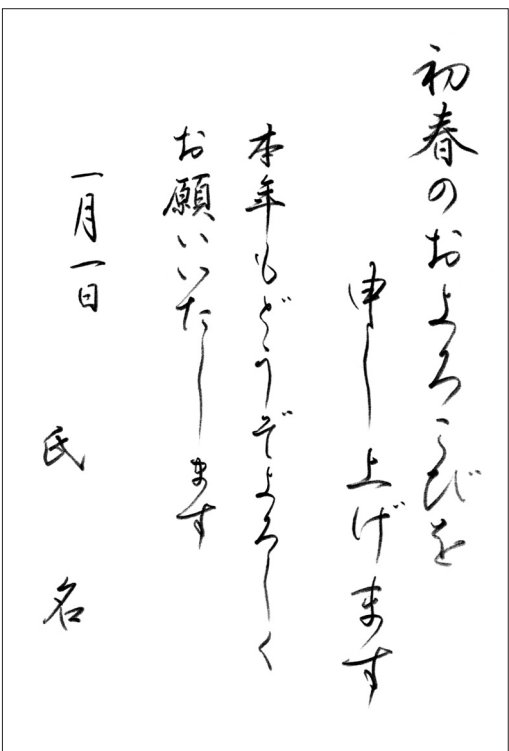
課題(A) (毛筆)

〈指定用紙〉官製ハガキ、またはハガキサイズ(100mm×148mm)にカットした用紙
 〈指定用具〉毛筆(小筆)



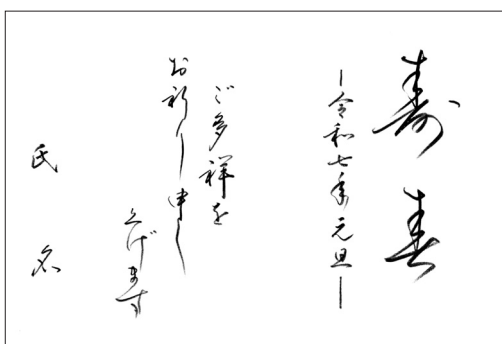
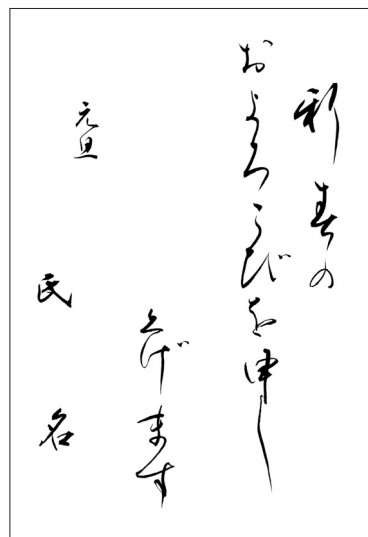
課題(B) (硬筆)

〈指定用紙〉官製ハガキ、またはハガキサイズ(100mm×148mm)にカットした用紙
 〈指定用具〉硬筆用ペン、サインペン、ボールペン、万年筆、鉛筆



課題(C) 【自由創作】

一例



〈提出について〉

- ※「出品者氏名」には自身の氏名を書いてください。
- ※作品に貼付する出品券欄には、毛筆には毛筆の、硬筆には硬筆の段級位を書いてください。
- ※提出作品は、課題(A)、(B)、(C)のいずれか一点です。
- ※生涯学習部での提出はできません。